

原職を必ず奪還するぞ

営業協議会と営業支部へ

強制配転で職場を奪われ、駅・売店等で働く仲間達は、この不当な扱いに怒りを燃やし、「必ずや原職を奪還する」その決意を一日たりとも忘れず日々闘いぬいている。

ハンドルを、ハンマーを奪われ、早い人ですでに三年。われわれは今こそ原職奪還に向け闘わなければならぬ。

強制配転は動労千葉、国労つぶしそのものだ。分割・民営化を前に国鉄労働者の反撃を恐れた当局は、裏切り者「動労」を手先に、「血の入れ換え」と叫び、文字通りファシストのごとき手段をもつて、国労組合員を排除しては革マル文字を入れ、当局、権力は、総力で組合つぶし、闘争圧縮に走ったのであった。二百名もの自殺者を出したにもかかわらず、なお強行され、まさしく労働者の血の上に「血の入れ換え」は行われたのであった。

しかしわが動労千葉は、分割・民営化に抗して唯一、二波ストライキに立ち、真正面から対決し、

闘ったがゆえに、組織を団結を守りぬき、八九春闘では遂に運転職場でのストライキを勝ちとったのである。

動労千葉の強制配転者はすでに百名を数える。一方的に人活センターに收容され、その後、一日として運転職場に帰ることなく、駅・無人駅・売店へとタライ廻しにされた仲間達は、今まともな仕事すら与えられず、なお「收容」され、また動労千葉をつぶさんがため、支部役員、青年部員を次々と強制配転したのである。

だがしかし、当局の手の内は早くも行きづまり、運転での要員不足、年休すらまともに取りれない常態となり、また配転者は決して屈せず、駅の中でしぶとく生きていく。これこそがわれわれの勝利である。当局の目論見は完全に失敗したので。さらに駅の仲間達は、昨年反撃の先陣を担い波状ストを貫徹し、四月十三、十七日、幕張支部、佐倉地区、新小岩地区八名の仲間達は、権力(私服・

機動隊)、当局の数十、数百名を動員した弾圧体制をはねのけ、一名で、あるいは二名でスト通告をたたきつけ、現場のストライキと連帯・合流をかちとった。

原職を全力で奪還しよう。今こそ闘いが重要だ。京葉支部、事業団支部に続き、営業支部を結成し、駅での闘いをさらに強化しよう。

解雇者を守りぬき、事業団の仲間の奪還に向け全組合員一丸となり、運転、駅、あらゆる職場で持ち場で奮闘しよう。営業配転者百名はその先頭にたとう。

十周年記念レセプションでの来賓の方々のご挨拶

動労千葉の十年は、まさに血と汗でかちとられた十年だ。
七九年三月〜四月、皆さんは「動労革マル」の暴力襲撃を全て叩き出した。その成果のうえで動労千葉を結成し、三里塚・ジェット闘争、分割・民営化阻止の二波のストライキ、このような巨大な成果をあげた。まさしく闘いをもってかちとられた十年である。

この皆さんの闘いは日本の階級闘争、労働運動における最も輝かしい

当面の
主な取り組み

⑤/14 家庭会連続講座

パート・女性(労働者)の権利

14時・社会センター
(千葉神社近く)

5・14 沖繩闘争東京集会
12時半・中央区日本橋公会堂

5.28(日)
三里塚全国集会
全力動員

しい歴史に残る成果だ。しかしながら、この巨大な成果は二八名の解雇、十二名の清算事業団送りという尊い犠牲のもとによるものである。

裁判闘争、そしてその他の闘争においてこのような不当攻撃を撤回させ勝利し、皆さんと共に喜び合いたい。そして、八九年末、九〇年代の不況の中で、団結を固め闘い抜き、動労総連合、全国労組交流センターの皆さんと共に、巨大な労働運動の闘いをつくりあげていく。そのような闘いに弁護団も寄与していきたい。